２０１８年１２月１０日「奥浅草だより」第１６号

葛飾北斎とあさくさ

テレビで「神奈川沖浪裏」は、実は北斎が台東区花川戸で描いたという推理をしていた。北斎については、ほとんどが飯島虚心・鈴木重三著「葛飾北斎伝」によるので確証の持てる話ばかりではない。８８歳と長生きしたこともあり非常に想像がふくらむ人物である。

北斎は画家ではルノアール、モネ、ゴッホ、ゴーギャンなど、音楽家ではドビュッシー、ラヴェルなどに影響を与え、ヨーロッパにジャポニスム旋風を巻き起こした代表格である。

代表作は木版画の「富嶽三十六景」、「北斎漫画」。肉筆画で立姿の花魁と坐姿の女芸者を配した「絹本著色二美人図」(ＭＯＡ美術館蔵)は国宝・重要文化財に指定されている。

生誕地は現在の墨田区亀沢２丁目（ここにはすみだ北斎美術館がある)。生涯で引っ越しは９３回。そして終の棲家は台東区浅草６丁目（かつての浅草聖天町)。当時金龍山浅草寺の広大な敷地内にある子院の遍照院内長屋である。実際住んでいたのは現在の遍照院より北であるがその辺りには何の表示もない。

墓は台東区元浅草４丁目の誓教寺にある。ここは北斎の両親の川村家の菩提寺であり、寺は震災や戦災から今日まで過去帳を守ってきている。２０１９年は没後１７０年にあたり、法要も行われる。

森アーツセンターギャラリーでは１月１７日～３月２４日まで「新・北斎展」が開催される。近年北斎の最期をみとった娘の葛飾応為(おうい)も海外を含め、脚光をあびている。

～・～

この「奥浅草だより」は『奥浅草　地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧になれます。　http://www.sanox.co.jp

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子